

ひまわり

令和6年7月号



↑カラー版はこちらから

「防災と安全」

校長 門脇 伸也

まもなく1学期が終わり、児童・生徒にとっては夏休みとなります。保護者や関係機関の皆様のご協力で、今学期が無事に終業できることに安堵しております。

さて、本校では9月4日に「総合防災教育」を実施します。そこで災害について、最近の話題を取り上げてみます。

令和6年3月、総務省行政評価局は、文部科学省の医療的ケア児支援法について、行政調査による評価を行い、「医療的ケアとその家族に対する支援に関する調査—小学校における医療的ケアの実施体制の構築を中心として—」の結果報告の中で「課題がある」という評価を出しました。課題の一部を取り出してみると、「一部の小学校において在籍する医療的ケア児のための医療材料、医療器具、備蓄非常食等の準備、人口呼吸器を利用している子の非常用電源の準備がなされておらず、その必要性も検討されていなかった」また、「医療的ケア児を保護者に引き渡すことが出来ず、小学校での待機が長期化した場合における医療的ケア実施者の想定がされていない」というものです。

この調査は、主語が小学校になっていますが、新宿養護学校に置き換えてみると、災害時に十分に対応できるのだろうか、と考えさせられます。緊急時の医療的ケアのマニュアルの在り方、災害時における医療的ケアの対応、必要物品の管理などについて、この夏季休業中にでも、見直しを行う必要があると考えています。某都立特別支援学校の校長先生は、「災害時の準備はしてきているが、いざという時に、日頃当たり前にできていることが出来なかったら、謝罪では済まされない」、と話をしてくれました。例えば、医療的ケア専用通学車両の運行において、交通渋滞が長引いて吸引や呼吸器の必要性が出てきた時、そこで吸引機や呼吸器の電池が切れたとしたらどうするか、また機械が動かなかつたらどうするか、ダブルで用意しておく必要があるのではないか、洗浄機、アンビューバック、酸素ボンベ等々の用意が必要ではないか、駐車できる場所を契約しておく必要があるのではないか、等々考えることはたくさんあると伝えてくれました。

また、帰宅困難児となってしまうかどうかということも課題です。今年度は宿泊行事が再開しますが、この宿泊行事の経験が、親から離れて過ごす時間が長くなった場合のためにも必要であると捉えると、宿泊行事は防災を考える良い機会なのかもしれません。都立高校では災害時を想定した校内宿泊体験というのを1年生で体験するプログラムが用意されています。聞くところによると一部の特別支援学校でも実施していると聞いていますが、本校で実施するには、なかなかハードルの高いものとなるでしょう。本校ではカセットボンベを利用した発電機があります。また、やや容量の大きな充電器も区より支給され4台設置しています。ただし、全てをこれに頼って生活するまでの想定はしたことがありませんので、カセットボンベも在庫分でどれぐらいの時間を生活することに耐えられるのかは試算しておく必要があります。児童・生徒分の非常食や薬品等は3日分を保護者からお預かりしています。区防災課から水と非常食、毛布や簡易トイレ備蓄していますが、校舎内にいる人数でどう分配していくのか、このような様々なことを想定する時間と場が必要です。

あらためて、夏休みに御家族で災害時の対応を話題にさせていただき良い機会としてください。保護者及び地域、関係機関の皆様、暑さの厳しい夏が予想されます。益々ご自愛ください。

2学期の始業式は、8月26日(月)です。児童・生徒が元気な顔で登校してくることを期待します。

中学部 学校間交流

6月21日（金）に四谷中学校の新苑学級の生徒が来校し、中学部の生徒とボッチャで交流を行いました。昨年度に続き対面で行うことができ、生徒・教員共に喜びを感じました。事前学習では、みんなでウェルカムメッセージを筆で書いたり、リハーサルを行ったりして、迎える準備に取り組みました。当日は、新宿養護学校と新苑学級の生徒は4つの混合チームに分かれ、自己紹介や投球順を決めながらコミュニケーションを取り、試合に臨みました。両校の生徒全員が楽しみ、また来年も交流したいと思える学校間交流を行うことができました。



小学部 鶴巻小学校 学校間交流



7月5日（金）、小学部5・6年生と鶴巻小学校6年生が、主に「じゃんけん列車」と「ボッチャ」の活動を通して学校間交流をしました。

エントランスで出会った当初は、お互いに緊張の様子でしたが、次第に少しずつ打ち解け、話し掛けたり車椅子を押したりと自発的に交流するようになっていきました。そして、「ボッチャ」で勝利したあるチームは、鶴巻小の児童が本校の児童を囲み、手を取り合いながら一丸となって喜ぶ様子が見られるなど、とても温かい雰囲気交流会となりました。

小学部 西新宿小学校 学校間交流

6月28日（金）に西新宿小学校で、本校の小学部1～3年生と西新宿小学校4年生が学校間交流を行いました。前半の班別レクリエーションでは、西新宿小学校の児童が事前に用意してくれた魚釣りやボーリング、すごろく等を楽しみました。後半は、全体レクリエーションでじゃんけん列車を行いました。最後は本校の児童を先頭に、1列の長い列車が出来上がりました。はじめは両校の児童とも緊張している様子でしたが、交流していくうちに段々と笑顔が増え、お別れの際にハイタッチをしている児童もいました。2学期の学校間交流では、より深い交流ができるよう、学校間の連携を大切にしていきます。



R6 放課後等デイサービス移動事業所等連絡会を開催して

特別支援教育コーディネーター 吉田 真由美

6月25日（火）、本校にて連絡会を開催しました。今年度は、本校でお馴染みの「ノーサイド新宿@Leaf 音楽療法センター」「児童発達支援放課後等デイサービスはびねす」「放課後デイサービススリーセブン」の3施設に加え、新しく開設されたばかりの「特定非営利活動法人三原色 多機能型重症児デイサービス Patto Potto」（パットポット）という施設も加わり、4団体5名の方に御参加いただきました。校内見学を行いました。職員の方はすぐに顔見知りの児童・生徒を見つけ、各教科の授業やPT・OT・STで頑張る姿を熱心に参観されていました。職員の方々からは「大変参考になった。」「学校で用いているコミュニケーション手段を放課後の活動でも引き継いでいきたい。」「連絡会を年2回程度行ってほしい。」などの御要望をいただきました。今後もさらなる連携の必要性を痛感しています。

最後に、今回初めて参加された「Patto Potto」について、所在地は中野区中野6丁目で、本校とはアクセスしやすい場所にあり、すでに本校への送迎が開始されています。詳しくはHPを御参照ください。